「国語科教員についての職業調査」

6班リテラシックスでは、国語科教員という職業について調査することで各メンバーの人生設計に役立てることを目的とする。

そのため国語科教員の社会的役割と、その職に就く人の生涯を調査し、俯瞰的立場からその職業についての理解を深める。

　以下、2018年10月10日に提出した「情報処理技法（リテラシ）Ⅱ職業調査計画書」の3．対象の内容に沿って調査報告を行う。

1. 職業概要

　ここでは高等学校の国語科教員に絞り概要を紹介する。

まず高等学校の国語科教員になるためには、大学（一般に教育学部国語教育専攻か文学部国文学専攻）の教職課程を修了し高等学校教諭一種免許状（国語）を取得する必要がある。また中高一貫の私立学校勤務や転勤の可能性を保持するために、中学校教諭一種免許状と併せて取得する者が多い。免許状取得後、教員採用試験を受験し合格することで初めて働くことができる。

次に国語科教員の仕事は非常に多岐に渡る。学習指導要領に沿って授業をするのは勿論、進路相談や部活動、行事を通して生徒や生徒の親とコミュニケーションを図っていく。

また、国語科教員は周りからあらゆる文章の添削を任されることが多く、試験問題の作成・採点が他教科よりも難しいため労力を要することがしばしばある。

このように国語科教員として働くことはハードだが、同時に得難いやりがいもあると言えるだろう。

1. 職業の市場の推移

　ここでは高等学校の教員数の推移に注目する。

　以下、グラフ1を参照する。

戦後日本は高度経済成長により1955（昭和30）年から四度の好景気を迎える。そのため当時、公務員である教員の給与は他の職業と比較して決して高くないという認識だった。

しかし1991（平成3）年のバブル崩壊以降、日本の景気は大きく後退した。平成5年以前、教員採用試験の倍率は3.7～5.4倍であったが平成7年には7.4倍を記録、前年率＋4.5倍となった。近年、経済は回復してきたが安定志向な働き手は多い。

グラフ1：高等学校の教員数の推移［1］

次に高等学校の教員数に占める女性の割合に注目する。

昭和後期は1967（昭和47）年に男女雇用機会均等法が制定されたが、女性の比率は16.7～17.9パーセントと決して高くはなかった。

しかし1999（平成11）年の男女共同参画社会基本法により男女平等への動きが本格化・加速化したため、平成では5年間で平均2.8パーセントずつ教員数に占める女性の比率が上昇している。今後も女性教員は増加傾向にあると予測できる。

1. 職業に就く人の人口比率、年齢比率

まずは教員採用者の人口比率について考　　表1：教員採用者数の人口比率［1］

　えていく。以下、表1を参照する。参考ま

　でにサラリーマンの割合は88.5パーセント

　だ。グラフ2の競争倍率の推移により例外

　的に大きな変動がみられるが基本、人口比

　率は0.3～0.6パーセントである。

　グラフ2：教員採用者の競争倍率の推移［1］

グラフ3：高等学校教員の年齢別割合比較［2］

　　表2：高等学校教員の年齢別割合比較［2］



次に高等学校教員の年齢別比較をする。以下、グラフ3と表2を参照する。

表2で二つの年の年齢比率上位3項目をピックアップする。すると平成17年度は40~55歳未満であったのに対し、平成29年度は45~60歳未満と一段階年代が上がっていることに気づく。この要因として教員の離職率の低さと定年の引き上げが挙げられるだろう。

1. 職業に就いた人の人生の流れ

教員採用試験を受験し合格することで教員人生は始まる。初めての赴任先の学校では新米教師として先輩教師の話をよく聞き、学校生活で必要な様々なノウハウを身につける。そして授業での実践を通して試行錯誤の毎日を送る。

教員は一般的な企業とは異なり明確な定時がなく、残業は多い。しかし教員職は4月の時点で年間のスケジュールが確定しているため安定しているといえる。また、退職後も生徒から同窓会に招待されるなど、生涯の素敵な人との繋がりを手にすることが出来るかもしれない。

1. 国語科教員へ直接の取材

　取材を通して①教員採用試験は難しい②授業以外にも朝の時間や土日など拘束されることが多い③生徒は十人十色で、その個性に応じて向き合う必要があるということが分かった（山田さん）。詳細は別紙にて。

1. 塾講師の職業体験

　職業体験を通して①個別指導は各生徒に対して適切な対応をするのが難しい②集団指導は理解度の個人差に配慮するのが難しい③個別・集団にかかわらず、授業の用意や予習が大変④生徒の役に立てたときは嬉しく、授業外の交流は楽しいということがわかった (廣池さん)。詳細は別紙にて。

　6班リテラシックスでは、各自の人生設計に役立てるため国語科教員についての職業調査を行った。

　本調査により国語科教員になるためには免許状の取得と教員採用試験の合格が必要不可欠であることが分かった。また教員は安定志向な働き手が志し、いつの時代も教育に貢献していること。そして近年は女性教師は増え、少子高齢化の影響は教師の年齢にも例外なく及ぶことも分かった。そしてなにより国語科教員は素敵な職業の一つであると感じられた。

　このように国語科教員という人生の一例を考える中で、自分の志望する職業の場合はどうだろうと考えを巡らせることができた。どんな職業にもメリットとデメリットがある。そのことについて自分の価値観をもって考え、最終的に納得のいく職業選択をしたい。

　参考文献

1. 文部科学統計要覧（平成30年版）

http://www.mext.go.jp/b\_menu/toukei/002/002b/1403130.htm

1. 平成28年度学校教員統計調査（確定値）の公表について

http://www.mext.go.jp/component/b\_menu/other/\_\_icsFiles/afieldfile/2018/03/28/1395303\_01.pdf#search=%27%E6%95%99%E5%B8%AB+%E5%B9%B4%E9%BD%A2+%E6%8E%A8%E7%A7%BB%27

・ Career Garden

<http://careergarden.jp/>